



大学コンソーシアム八王子

The Consortium of Universities in Hachioji

令和5年度 大学コンソーシアム八王子

学生企画事業補助金

事業報告書

## 令和5年度学生企画事業補助金採択団体一覧

No.	大学等名	団体名	事業名
1	多摩大学	内藤研究室	八王子産の多摩産材を使ったお香の開発
2	創価大学	理工学部丸田ゼミ	八王子産酒米米粉を利用したバイオプラスチックのオリジナル製品の開発
3	多摩大学	梅澤ホームゼミナール	世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト2023
4	東京家政学院大学	三澤ゼミナール(食育研究会)	地域住民の食環境改善のための中食を利用した取り組み
5	中央大学	FLP地域・公共マネジメントプログラム 鳴子ゼミ	もっと知りたいLGBT! in多摩キャンパス
6	拓殖大学	実践のまちづくり学2023	繋げる町、繋がる町 ～館ヶ丘団地における世代間交流拠点の整備～
7	多摩美術大学	Tama Creative Guild	間伐材再利用プロジェクト
8	サレジオ工業高等専門学校	機械電子工学科 学科プロジェクト	ロボット製作教室2023 in サレジオ
9	東京家政学院大学	三澤ゼミナール(食育研究会)	八王子産の規格外野菜を活用した乾燥野菜のメニュー開発

# 八王子産の多摩産材を使ったお香の開発

多摩大学 内藤研究室

代表者名 山本捺美

## 1 事業内容

「地域情報の発信×癒し」をテーマとして八王子をPRするため、八王子を含めた多摩地域の生産物を使用した商品を開発し、商品のブランド化を行う。また、「癒し」を商品化するため「お香」を作成する。

企画の目標は八王子のPRであり、商品にお香を選定し、商品開発と商品のブランド化を行う。八王子PRのために地域ブランド品を開発するため、多摩地域の生産物の現状を調査し、材料を加工・成型して商品化する。八王子産材の販促、イメージ向上となる製品を制作し、認知度向上に向けたPR商品を作成するものとする。

また、商品の効果の客観的指標として脳波測定を行うものとする。

## 2 実施報告

(1) 香り材としてのハーブについては、府中市の生産農家から入手した。また、パッションフルーツはコンソーシアム八王子に依頼してJA八王子から種と果肉を入手した。

(2) お香はタブ粉に八王子産多摩産材のヒノキを粉末にしたものを混ぜ、香り材には、ハーブとして生のハッカの葉、ラベンダーの葉、パッションフルーツの種と周囲の果肉を蒸留して

得た精製水を使用し、香り材と混ぜ合わせた粉末により三角錐の形を形成し、完全乾燥させた。

(3) 効果測定のため脳波を測定した。測定には、市販の簡易脳波測定機を用いストレス指標( $\alpha$ 波/ $\beta$ 波)を計測した。お香の効果を明確に示す測定結果は得られなかった。

(4) 試験販売は2023年11月11日八王子市にある富士森公園で行われている、手仕事アー

トマーケットにおいて販売し、お香は、20箱ほど陳列し販売し、ハッカ 3個、ラベンダー 4個、パッションフルーツ 4個を売り上げた。当日は肌寒くあいにくの天気であったものの多くの来客を得ることができた。

## 3 事業を実施した感想

まずは商品として形になって安堵したところである。商品のブランド化を行う地域ブランド品の開発ため、多摩地域の生産物を材料として加工・成型して商品化することを目標としていたため、多摩地域での材料調達にとっても苦勞した。だが、多摩地域の色々な人たちの協力の元、商品化を進めることが出来た。

マルシェでの売れ行きも悪くなく、マルシェでの八王子PRは効果があったと思われ、制作物が実際に売れて達成感を得た。

脳波の実験で、実際にお香を使うことによってリラックス効果や癒し効果があるのかを確かめたが、お香に対する嗜好や通常の状態とは異なる匂いに対する反応が個々人によってことなるためだと推定され、一般性をもってお香が癒し効果があるとはいいい切れない結果となったことは残念であった。

## 4 謝辞

本企画の実施にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧な指導して下さったコンソーシアム八王子事務局の方々に感謝いたします。

企画の趣旨を理解し快く協力して頂き、香材の提供をいただきましたJA八王子様、森と踊る様、国立市の河内農園河内様に心から感謝します。本当にありがとうございました。



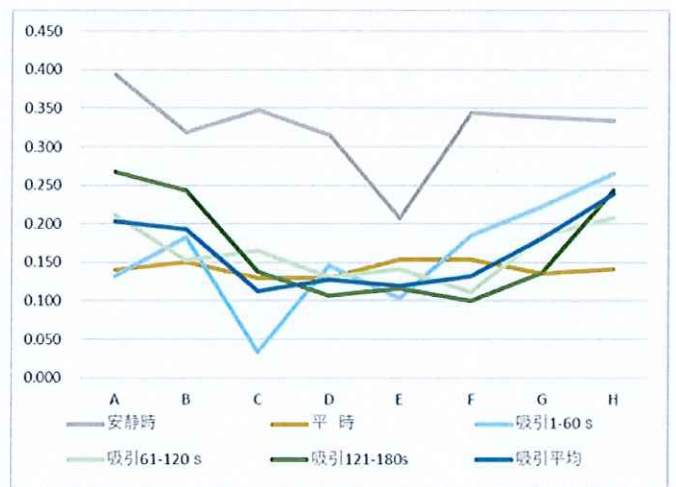
香り材の蒸留の様子



お香の成型と乾燥

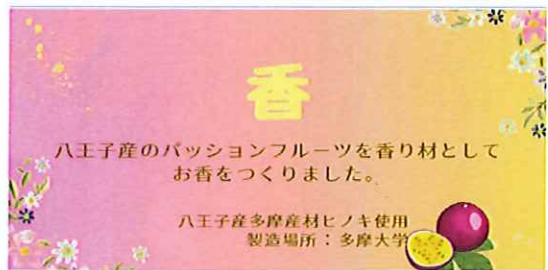


脳波測定の様子



α/β 値





ラベル製作



販売ブース

# 八王子産酒米米粉を利用したバイオプラスチックのオリジナル製品の開発

創価大学 理工学部 丸田ゼミ  
塩田 賢伸

## ① 事業内容

私達のゼミでは、これまでに八王子の地域活性化を目的として、八王子特産米である高月清流米を利用した米粉湯種パンやチョコブラウニーなどの加工食品を開発する事業を行ってきました。そして、これまでの大学コンソーシアム八王子が実施する様々な企画やイベントへの参加がきっかけとなり、多くの企業、団体と連携することができました。その中で“NPO 法人はちぶろ”（八王子産高月清流米の日本酒“高尾の天狗”による町おこしプロジェクト）と連携して、日本酒製造過程で発生する活用されていなかった副産物の米粉を有効利用した加工製品を開発する事業を開始しました。

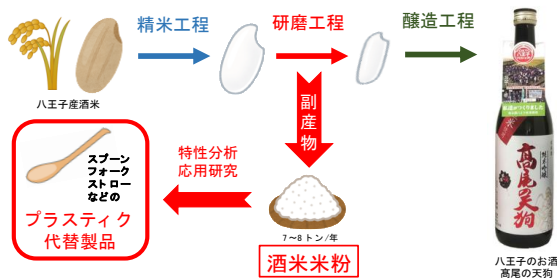


図 1. 吟醸酒製造過程で発生する副産物酒米米粉

これまでに酒米米粉デンプンの特性分析を行い、酒米米粉の特性に適したしっとり系のスイーツや食べられるスプーンの開発に成功しました。さらに、企業との連携による情報収集と分析を進めた結果、バイオプラスチックの素材として優れていることを確認しました。そして、バイオマスプラスチック企業と連携して八王子産米粉のバイオプラスチック素材を開発して、これを利用した米粉バイオマスプラスチックの成型が可能である事を明らかにしました。そして、射出成形品としてスプーンなどのカトラリーやノベルティーとしてのクリップを制作しました。また、インフレーション成形品として、レジ袋とゴミ袋の試作まで発展させることができました。

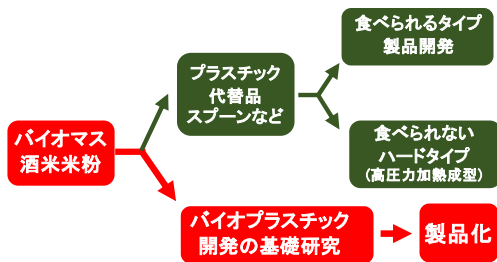


図 2. 現在展開中の酒米米粉バイオマスの応用研究



図 3. 開発した米率 51%バイオプラスチックの射出成形品

本事業の目的は、この米粉をバイオマスとして捉え、有効活用するために地域企業と連携して米粉のバイオプラスチックのオリジナル製品を開発することです。八王子地域活性化と現在注目されている食品ロス、プラスチック環境問題の解決、SDGs に貢献することを目指します。特にプラスチック環境問題は、世界的に注目されており、その対応が急がれています。日本でも最近になってスーパーのレジ袋の有料化や飲食店でのプラスチック製品・ストローなどを使用しない運動が広まっています。しかし、プラスチック製品はとても便利であり、私たちの生活に貢献してきたことは事実です。使わないのではなく、石油製品のプラスチックに替わるバイオプラスチック製品に置き換えることが望まれます。従って、本事業の副産物の米粉を利用したバイオマスプラスチック製品を開発する試みは、とてもタイムリーな事業になると思われます。

## ② 実施報告

### 1. (株)セイホーと連携した新しいデザインの米粉バイオプラスチック・クリップの開発

#### 1-1. オリジナル金型を利用したクリップ製品開発

(株)セイホーと連携して、昨年度作成したクリップの中央部分にある八王子市章の部分様々なロゴに変換できる金型をデザインを行いました。そして、試作品としてして創価大学のエンブレムの入った金型の作成を行いました。そして、バイオポリ上越と連携して調製した米粉バイオマスプラスチック素材のペレットを使用して、(株)セイホーの協力で創価大学のロゴ入りクリップのオリジナル製品を実際に試作することができました。そして、商品化に向けて創価大学の売店を運営する創学サービスと打ち合わせを行い、将来的に大学の記念品として販売する可能性を検討しました。

#### 1-2. オリジナルロゴシール利用したクリップ製品開発

八王子市章入りのクリップの裏側にノベルティー

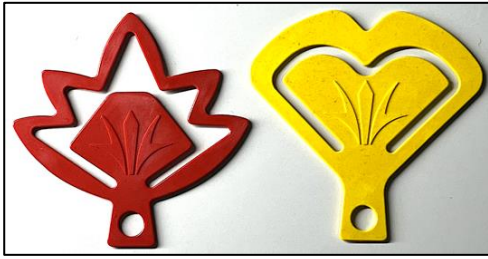


図 4. 創価大学エムブレム入りオリジナルクリップ

製品として採用していただける企業・団体のロゴのシールを貼ったオリジナル・クリップを検討しました。まず、参考例として大学コンソーシアム八王子、東京八王子酒造のロゴ入りシールを作成を行い、オリジナルクリップの試作を行いました。



図 5. 団体・企業ロゴ入りオリジナルクリップ

## 2. 米粉バイオプラスチック袋製品の開発

上越市の古古米を利用した指定ゴミ袋を製造している(株)バイオポリ上越と連携して、八王子産米粉バイオマスプライチックペレットを利用したレジ袋とゴミ袋のデザインを行いました。20Lサイズの米粉20%+80%ポリエチレンからできたゴミ袋の試作を行い、引っ張り強度等の分析を行いました。上越市で採用している古古米 20%ゴミ袋と同程度の特性を持つことが明らかになり、ゴミ袋として利用できることが示されました。

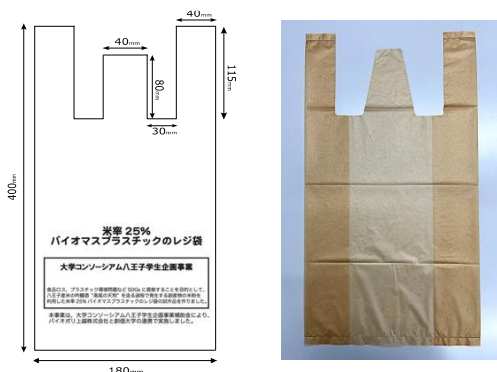


図 6. (左)丸田ゼミで開発中の八王子産米 25%バイオプラスチックのレジ袋のデザインと(右)試作した八王子産米 20%バイオマスプラスチックのゴミ袋 20L

## 3. 事業のイベントでの広報活動

### 3-1. 学生天国(5/14)

八王子ユーロードで開催された学生天国において、学生企画事業内容の広報活動そしてオリジナル製品の試作品の試供を行いました。

3-2. 私立大学環境保全協議会グループ討議 I:教育と連携「教育と産学の連携(創価大学丸田ゼミの挑戦)」での活動報告(9/1) 丸田ゼミの学生が行なっている地域の活性化とSDGsへの寄与のために行なっている本年度の大学コンソーシアム八王子学生企画事業の活動を紹介し討議を行いました。

### 3-3. 日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子(11/5)

ゼミの取り組みの紹介とこれまでに開発したスプーンなどカトラリー製品やバイオマスプラスチックのクリップの試供を行いました。

### 3-4. 八王子いちよう祭り (11/18-19)

いちよう祭りで、事業のプレゼンと開発した米粉バイオマスプラスチックのクリップの試供を行いました。また、米粉バイオマスプラスチックのゴミ袋の八王子指定のゴミ袋としての可能性に関するアンケート調査を行いました。市民の皆様から、高い支持が得られました。

### 3-5. 大学コンソーシアム八王子学生発表会 (12/10)

八王子市長へ直接提案セッションにおいて、本年度の事業で開発した八王子産米粉 20%のゴミ袋を八王子市のゴミ袋として提案を行い、最優秀賞を受賞することができました。審査員から高い評価と八王子市ごみ減量対策課から"バイオポリエチレンに代わる新たな素材の候補として検討に値する"というコメントをいただきました。

## 5. まとめ

八王子産米の吟醸酒を製造する過程で発生する副産物・酒米米粉のバイオマスプラスチックのオリジナル製品の開発をこなしました。米粉率 51%のバイオマスプラスチックのクリップに幾つかの団体のロゴ入り製品の試作を行いました。米粉率 20%のバイオマスプラスチックのゴミ袋の試作を行いました。これらのオリジナル製品の開発は、市民の皆様をいただくことができ、地域活性化や地域のプラスチック環境問題解決に貢献できる可能性が示されました。

### ③事業を実施した感想

環境問題、SDGs、フードロスなど興味をもっていても何をしたいか、どう貢献したらいいかわからないという声が多いことを実感しました。実際にいつ八王子市に米粉ゴミ袋が導入できるかどうかはまだわかりませんが、市民が

この1年はありがたいことに、メディアに取り上げていただける機会が多く、徐々に私たちの活動が認知されてきていることを実感しました。

この活動は丸田ゼミを選んだ後輩達に引き継いでもらい、今後のさらなる発展に期待しています。

## 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2023

団体名 多摩大学梅澤佳子ホームゼミナール

メンバー ○堀勇斗、岩田柚菜、大谷彩花、陸彩菜、近藤海優、齋藤純白、中村優貴、(4年)  
雨宮永大、上江洲安輝、大串慶斗、近藤直希、清水寛太、鈴木達也、徳常生吹、  
西田凌馬(3年) (○ 代表者)

### ① 事業内容

本事業は八王子市高齢者あんしん相談センター旭町、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員、有志と学生が協働して駅前という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。プロジェクト(以下PJ)は「世代間交流」をキーワードに高齢者の健康寿命の一助となることを目的とし、高齢者が自然体でゆったりと過ごすことができる「みんなのゆったりサロン」を心がけている。サロンは2016年より2020年1月迄の4年間で36回運営してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2月から一時休止となった。そこで2020年から新規事業として通信の発行、ハガキによる交流、オンラインによる高齢者サロンの仕組みづくりを2年かけて進めた。2022年からは徐々に対面でのサロンを再開し、今年度は完全対面で開催し、2024年1月に第56回駅前サロンを実施した。

※2016~2022年度の事業の詳細については、過去の「学生企画事業補助金事業報告書」をご参照いただきたい。

### ② 実施報告

#### ア. 駅前サロンの企画・運営について

今年度のキックオフ集中ゼミでは、サロンの質に拘る活動、昨年以上に良いものにしようとしてゼミ生全員で議論を重ねた。サロンは50回以上続いている。マンネリ化しないように常に新しく楽しんで頂ける企画を目指した。PDCAをしっかりと回し、前回のサロンの反省点は必ず解決

するように心がけた。具体的にはタイムスケジュールの見直し、連携団体の皆様も含めた全員参加型のレクリエーション、合唱、体操である。在宅が多く、会話する機会が減っている参加者にとってご歓談の大好評である。このご歓談をもっと良くしようと「駅前サロン通信」に掲載している「学生生活紹介動画」を当日も大画面で一緒に見てご歓談の切り口にした。

#### イ. 「駅前サロン通信」の発行(4年目継続)

コロナ禍でサロンの休止が続く中、サロンに参加して下さっていた高齢者の方々の状況が心配になった。そこで皆様との繋がりを保ち続ける事を目的に2020年6月から通信の作成を始めた。配布は連携団体の皆様をお願いしている。2023年度の表紙は未だ遠出が難しいと考え、全国各県の名所・名物を取り上げた。

2頁目は昨年度から引き続き学生からの便りとQRコードを用いての学生生活紹介動画を掲載している。動画は大好評で、皆様からの希望により現在は3分程度の動画制作を行っている。学生紹介動画はサロンのプログラムの1つになっていることもあり、高いクオリティを目指し視聴者の方々が引き込まれる動画作りを心掛けた。動画制作も全ゼミ生が担当している。普段接している皆さんの顔を思い浮かべながら内容を考え、動画を撮り、見やすく編集する作業を通じて編集スキルも向上している。

3頁目は連携団体の皆様に原稿を頂いている。本PJは皆で協働して運営しているので、通信も全員参加で作成したいと考えている。



昨年度まで4頁目に掲載していた「Let's脳トレ」はクイズの難易度を上げてほしい、問題数を増やしてほしい、先月号の答えだけでなく解説も欲しい等様々な要望を頂いた。それに応えるべくA4サイズ1枚の別紙を増やした。表面は今月号の問題、裏面には先月号の答えと解説を掲載し、通信に挟んで配布した。『Let's脳トレ』を掲載していた4頁目には学生お薦めのお店紹介や次回のサロン情報、暑中見舞いハガキの返信内容等を掲載し有効活用した。

**ウ. 新規事業1-世代間交流スマホ何でも相談会**  
駅前サロンを通じて、高齢者の方々が携帯電話・スマートフォンの使い方等で困っていることがわかったが、サロンでは相談にのれる時間が限られる。また、暑中見舞いの返信ハガキでも携帯電話について相談したいという要望が複数寄せられた。そこで私たちは「世代間交流スマホなんでも相談会を企画・運営することにした。また、当日はご歓談を通じての交流だけでもよいと考え“世代間交流”という言葉を用いた。

この活動を通して、高齢者は振込め詐欺や押し買い等から身を守るために日々、神経をすり減らしていると実感した。学生が社会的団体と連携する事で高齢者が安心できる相談場所を設ける事、1対1で時間(40~60分)をかけ、丁寧に対応する事が求められており、そこに学生の出番があるということを学んだ。

#### **エ. 新規事業2-世代間交流出張サロン**

私たち学生が地域団体と連携して高齢者サロンを開催する仕組みづくりがある程度出来上がった。この活動を八王子市内の他大学の学生にもキャンパスのそばの高齢者サロン等で実施して貰うにはどうしたらよいかと考えた。まずは私たちが他のサロンの活動内容、仕組みを理解することが重要だと考え、八王子市内の高齢者サロン、認知症カフェに参加した。活動を通して、どのサロンも学生の参加は大歓迎

であることがわかった。またサロンにはさまざまな運営方法があるが、一部の時間を借りてレクリエーションなど学生の企画を行うことも可能であることがわかった。

#### **オ. JR東日本八王子支社**

##### **八王子営業統括センターとの連携**

大学コンソーシアム八王子に仲介して頂き、JR東日本八王子支社八王子営業統括センターと1月にスマホ相談会@デジタルよろず相談所を開催、2月には世代間交流サロンを開催することができた。

#### **② 感想、今後の展開について**

駅前サロンについては、日常に戻ったことで、参加者は30名近くまで増えている。男性の参加が多いのが私たちのサロンの特徴であり、今後も増やしたい。連携団体の皆様から企画内容、当日の設営、運営等全てを任せることが出来るとお言葉を頂いた。ゼミ生全員がこのPJを通して沢山学んでいる。サロンでは企画・運営の段階で前回の反省を活かし、更に良い活動にしようとする自然に高齢者の目線に立って考えられるようになった。これは通信も同様であり、読者は何を求めているかを全員で考え、相手の立場、状況を踏まえて編集作業を進める事ができた。また、新規事業は不安があったが、やってみることで新たな発見が多々あった。

次年度は4年のみでの活動となるがサロン、新規事業を継続し、連携の機会があればもっと多くの人と交流し、地域の方々に喜んでもらえる仕組みをつくり活動していきたいと思う。

謝辞

長年にわたりにご支援、ご協力を頂いております八王子市高齢者あんしん相談センター旭町、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員、有志、大学コンソーシアム八王子の皆様にご心より感謝の気持ちとお礼を申し上げます。

## 地域住民の食環境改善のための中食を利用した取り組み

団体名 東京家政学院大学(食育研究会)

代表者名 平山愛実

### ① 事業内容

本研究事業のデザインは、八王子市の地域住民の食物への意識度調査及び健康的な食事提供によって食環境の改善を図り、地域住民が自然と健康行動がとれるよう、きっかけ作りを行うと同時に、現在の地域住民の健康への意識について検討した。はちおうじ健康応援店であるスーパーアルプス、八王子市保健所と連携し、スマートミールを基準としてバランスの良い弁当の開発を行う。そこで、まずスーパーアルプスで販売されていた『カラダ嬉しいプレート』という健康弁当の栄養成分調査を行う。これを参考として、『ふわふわ! あんかけハンバーグ弁当』と『NEW! オムもぐプレート』を開発し、はちおうじNPO フェスティバル 2023 と地域連携事業報告会で弁当への評価、栄養成分表示の参考・理解、食への意識調査を行う。回収データを集計し、分析する。

### ② 実施報告

『ふわふわ! あんかけハンバーグ弁当』と『NEW! オムもぐプレート』の2つの弁当を開発した。

はちおうじNPO フェスティバル2023で142個の弁当を販売、地域連携事業報告会の試食会で40個の弁当提供を実施した。わかりやすい情報提供として、弁当の詳細の資料を作成した。(内容は栄養成分表示、スマートミールの解説、スマートミール基準値、弁当のPFCバランス等)

『ふわふわ! あんかけハンバーグ弁当』について、弁当の詳細資料を掲示し、アンケート調査を行った。アンケートの配布数は、はちおうじNPO フェスティバル2023参加者のうちの弁当購入者71名、11月16日に行った地域連携事業報告会の出席者16名、計87名。回収数は56人(回収率:64.4%)であっ

た。その中から問題項目の未回答、回答の不備を欠損データとして除外とすると、最終的な解析対象者数は22人(25.3%)であった。

### ③ 事業を実施した感想(実施した者として、どのように感じて、今後どのようにしたいのか)

イメージしたものを商品にするには、栄養バランスや見た目だけではなく、売れる要素、値段や食材の形態、さらに使用する容器など、様々な視点から考えなければいけないということを学んだ。スマートミールの基準値内に収めることに苦戦したが、完成した弁当を「美味しかった」と言って頂けた時は、嬉しかった。

八王子市の地域住民が自然と健康行動が取れるような食環境整備として、健康的な食物や食事の提供は弁当の開発、販売によってすることができた。しかし、健康的な食物に関する適切な情報が提供されていることについて、今回は現状を把握することのみとなり、消費者の関心が得られる適切な情報の提供はできなかった。今後は、今回の調査の問題項目で理解度の低い内容について、消費者に食育をしつつ、理解度の調査を行い、意欲や関心の向上を図りたい。

今回の調査で弁当に対する評価の項目については多くの対象者が回答してくれたが、栄養成分表示の参考と理解、食への知識や意識の項目は回答率が低く、有効回答数が大幅に下がってしまった。食に関する知識や意識については、もう少し容易な問題や問題項目への補足説明をする等の改善や工夫が必要である。

今回の調査では対象者の属性が限定的であったため、様々な属性の人が集まるイベントや店舗などで質問紙調査を実施したい。



『ふわふわ！あんかけハンバーグ弁当』



開発した『NEW！オムもぐプレート』

**ふわふわ！あんかけハンバーグ弁当**

(栄養成分表示)  
 エネルギー：529kcal、たんぱく質：24.0g、  
 脂質：15.1g、炭水化物：82.2g、食塩相当量：1.9g

スマートミール「ちゃんど」の基準  
 主食：150～180g  
 主菜：60～120g  
 副菜：140g  
 食塩相当量：3g未満

**PFCバランス**

たんぱく質	18.2%
脂質	25.7%
炭水化物	56.1%

スマートミールとは  
 健康に資する要素を含む栄養バランスのとれた食事の通称です。一食の中で、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷり、食塩のとり過ぎにも配慮した健康的な食事のことです。

東京家政学院大学 三澤ゼミナール  
 PIC・COLLAGE

弁当の資料①

**NEW！オムもぐプレート**

スマートミールとは  
 健康に資する要素を含む栄養バランスのとれた食事の通称です。一食の中で、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷり、食塩のとり過ぎにも配慮した健康的な食事のことです。

スマートミールとは  
 エネルギー：529kcal、たんぱく質：24.0g、脂質：15.1g、炭水化物：82.2g、食塩相当量：1.9g

大塚コンソーシアム八王子  
 The Laboratory of Management Science  
 令和5年度 学生企業実践型立派な事業

弁当の資料②



NPO フェスティバルでの販売の様子



連携事業報告会での発表の様子

## もっと知りたいLGBT!in多摩キャンパス

団体名 中央大学 FLP 地域・公共マネジメントプログラム鳴子ゼミ

代表者名 高岡 堇

### ・事業内容

一昨年度、ゼミ活動の一環として行った市へのヒアリング調査の結果、八王子市がLGBTに関する施策として電話相談を行っていることを知り、さらにLGBTやジェンダーに関する政策を行える余地があると考え、「私たち大学生が主体となり、LGBTの啓発や知識を深めるためのイベントを開催する」ということを政策提言した。そして本年度、「学生企画事業補助金」制度によりそれが実現する運びとなった。

様々な企業や教育機関等でLGBT教育の教材として利用されている高校を舞台に、LGBTをめぐる学生の心の葛藤を描いた映画「カラコエの花」を用いて映画鑑賞会を行い、ワークを通してLGBTの理解者であるアライを増やすことを目的に、正しい知識の涵養を目指すイベントを開催する。

### ・実施報告

イベントの参加人数は途中入室・退席を含め30名。

最初に、ゲストスピーカーとしてお招きした東京都立大学准教授の杉田真衣先生に授業形式でのジェンダーの基礎的な情報や映画を鑑賞する上でのポイントなどをご講演いただいた。

次に、映画を鑑賞し、自分が感じたことや感想などを整理し、事前に作成したアンケートに記入・提出を行った。じっくりと時間をとって、映画の登場人物について考え、ジェンダーについて自分自身と向き合う時間をつくることで、「LGBTは理解しなければならない」「ジェンダー平等は正しい」といった社会規範に強要された意見ではなく、自分が感じたままの意見を引き出すことに重点を置いた。

そして、他の参加者とお互いに感じたことを私たちが設定したテーマに沿って共有するワークを実施した。意見交換や対話によって感じたものを言語化することで当事者意識をより明確に感じてもらうことを目的とした。

イベントの最後には、ジェンダーや映画など幅広いテーマで杉田先生への質疑応答を受付けた。時間の関係上3名程度の質疑応答であったが、ダイバーシティ教育に関する質問や映画の登場人物のジェンダーや演出に関する考察など様々な質問が出て、とても有意義な時間となった。

イベントに関する満足度調査のアンケートでは、「LGBTに対する意識が高まった」、「LGBTの当事者が不快にならない態度を心がけよう

**イベント開催決定!**  
**11/25(土)**  
13:00-16:00  
中央大学多摩キャンパス  
グローバル館7階  
多目的ホール

八王子市×中央大  
**映画鑑賞会**

**自己紹介**  
はじめまして!中央大学に所属する学部間連携プログラム(FLP)の鳴子ゼミです。  
私たちは、大学コンソーシアム八王子の学生企画事業補助金を受け、八王子市民の方々に映画を通してLGBTや多様性について学ぶイベントを開催します。年齢、性別問わずご参加いただけます。

**映画あらすじ**  
とある高校2年生のクラス。ある日突然「LGBTについて」の授業が行われた。しかし他のクラスではその授業は行われておらず、生徒たちに疑問が生まれる。「うちのクラスにLGBTの人がいるんじゃないか?」生徒らの日常に波紋が広がっていき…  
登場人物は? 気になる心の変化は? 行方とは? —

**タイムテーブル**  
13:00~13:15 開会  
13:15~13:50 特別授業  
13:50~14:30 映画上映  
14:30~14:40 休憩  
14:40~15:00 ワーク①  
15:00~15:45 ワーク②  
15:45~16:00 閉会

**講演者紹介**  
東京理科大学 専門は教育学、ジェンダー・セクシュアリティと教育。若年層・児童と性によって異なる不利益に置かれた生徒層の女性たちに焦点をあて、両者の声に耳を傾ける。また、性別マイノリティの子供を、養育について、市民等の話を聞きながら研究を行っている。  
著書は「東京女性の12年—大学進学と労働、ゆるやかな暮らし」(丸の内書局)ほか多数。

**申し込み方法**  
申し込みアンケート→  
お問い合わせ先:  
中央大学FLP地域・公共マネジメントプログラム鳴子ゼミまで  
mail: a21.jdyk@g.chuo-u.ac.jp  
insta: narukozemi\_flg

鳴子ゼミ公式 Instagramで詳細を確認!  
@NARUKOZEMI\_FLP

大学コンソーシアム八王子  
Chuo University Inter-university Center  
各大学 学生企画事業補助金  
中央大学 学生企画事業補助金  
「スタートアップ支援」を掲げています。

と思った」、「杉田先生のお話が興味深かった」という意見の他、「ワークの時間が足りなかった」、「もっと他の人の意見も聞きたかった」、「参加者数をもっと多ければ良かった」などの意見をいただいた。全体的にイベントに関する肯定的な意見が多く、私たちがイベントのテーマにしていたLGBTに関する当事者意識の向上は達成したといえるアンケート結果となった。コンテンツごとの内容や参加者数に関する改善点を今後のイベントに活用していきたい。

#### イベント当日の詳細

2023年11月25日（土）

@中央大学多摩キャンパス GG701 教室

##### 【タイムスケジュール】

13:00～13:15 開会

13:15～13:50 特別授業（杉田真衣先生）

13:00～13:15 映画『カランコエの花』上演

13:00～13:15 休憩

13:00～13:15 ワーク①（個人ワーク）

13:00～13:15 ワーク②（意見共有）

13:00～13:15 開会



#### ・実施した感想

作成した資料やイベントの内容についても、アンケートにて高評価をいただくことができた。一方で、イベントの宣伝活動が少し遅くなってしまったうえ、土曜日であったために「す

でに予定が入ってしまっている」という声もあった。このことから、反省点として、もうすこし早く宣伝活動をすべきであったこと、開催日程についてももう少し検討する必要があったことがあげられる。

「映画鑑賞会」というイベント自体は非常にポピュラーなものであり、「私たちらしさ」を出すことに苦心した。しかし、このような啓発イベントは「受動的」なものが多くある中で、「当事者意識を抱いてもらう」という目的のもとで、個人ワークの時間を設定したことで、「主体的」に取り組んでもらうことができ、「私たちらしさ」溢れるイベントにすることができた。また、市内の大学や公共施設にもご協力いただきながら宣伝活動を行ったことで、中央大学生だけでなく、八王子市内の他大学からの学生や、地域住民の方にもお越しいただくことができた。

このイベントを実現するまでに約2年を費やしたが、非常に良い経験をすることができた。アンケート結果から参加者のニーズやマイナス面などの意見を参考に今後のイベントや企画についても考えていきたい。今後は、自己資金を元に学生生活最後の1年間でLGBTやジェンダーに関する正しい知識を少しでも多くの人に学び・行動するきっかけをつくる活動に尽力していきたいと考えている。

## 事業名 繋げる町、繋がる町～館ヶ丘団地における世代間交流拠点の整備～

団体名 拓殖大学 国際学部国際学科 実践のまちづくり学 2023

代表者名 近藤 美宇

### ①事業内容

#### <要旨>

高齢化率が高い地域での多世代間交流  
今後繋げる長期的交流拠点の整備

近年、少子高齢化が問題視されているが、八王子市館町に位置する館ヶ丘団地は、65歳以上の住民が60%を占めるのに対し、八王子市の平均が約27%である。この数値から見ても高齢化率が非常に高く、若年層の入居率が低い為、館ヶ丘団地内で多世代間の交流の機会が少なく、多世代間交流を行うには機会を人為的に行わなければならない。住民組織である館ヶ丘自治会は、団地内だけでなく団地外からの来訪者が増えるよう、様々な機会を設け、イベントの企画、実施を通して世代間の交流を行っていたが、単発的なイベントが多く、実際には十分な交流は図られていなかった。

館ヶ丘団地と拓殖大学は長年にわたり、相互間で交流を継続し、様々なイベントの実施をはじめ活性化支援を行ってきたが、新型コロナウイルスによって関係性が希薄化し、関りを持てる機会が少なかったが、今回の企画は、企画実施のみならず、準備期間や講義時間を活用し、自治会の方をはじめ、館ヶ丘団地が置かれている実態についてお話を伺いつつ、イベントの実施についてどのようなイベントの開催に興味があるのか、どのような催しが好ましいかなどを綿密に話す機会をいただきながら今まで抱えていた問題の改善に向けて長期的な多世代間交流ができるよう、「人の賑わい」を集めるイベントを実証的に行った上で館ヶ丘団地内の敷地を活用した「仕掛け」や「場作り」を行い、今後、より深く関係性を築くための「きっかけ」として、次世代に繋げることで成り立つことを前提に、多世代間交流拠点の整備や希薄化した関係性の再構築を目的としたイベントを館ヶ丘団地内の第三街区にて実施した。



大学にて館ヶ丘団地の方から団地における問題を聞く様子



館ヶ丘団地にてどのような催しが好ましいかを聞く様子

### ②実施報告

#### <要旨>

「団地」と向き合うために行ったこと

企画実施に向け構成した学生内の各班の役割

当初、団地内の雰囲気や、団地の抱える問題に関して「学び」としては知っていたが実際に「実践的」には理解していなかったため、団地に何度も足を運び自治会の方々に話を聞きつつ、自治会の方をはじめとする団地の方々との関係性の構築や学生を主体として活動を行う旨や、住民の方々に寄り添った企画実施することをお伝えたうえで、互いの目標や

理想像を擦り合わせていき、相互関係の構築を図った。

本企画は学内の講義の一環として行われた企画だったことから、40人を超える学生が携わり、企画立案から実施に向けて学生主体且つ、長期休みを挟んで講義時間内を活用していたため、当日に向けて同時進行しなければいけないことが多くあった為、企画実施日に向け、円滑に進められるよう、すべきことを細分化し、約5人～10人程度で班の構成を行い、

実施当日は、スタンプラリー、4台のキッチンカー出店、3団体による出演等が行われた。

当日までの準備段階では、当日に実施したスタンプラリー班、企画を行う上での渉外、集客するための広報班、当日の安全運営班、来場者の調査を行う環境整備班、予算内で企画実施する為の会計班、館ヶ丘団地の企画を立案から実施に向けて活動した企画班、このように分かれて活動を行った。

当日に至るまでの準備として、各班ではスタンプラリーを行う上で準備時にスタンプラリーコースの下見、チラシの作成を行い、予算内且つ、余裕を持った取り組みができるよう、お金の管理を徹底していた。また、キッチンカーのアポ取りや、警察署、消防署に届出書類の作成提出、野菜販売の発注、元八マルシェの代表の方へアドバイスをいただきながら、学生主体でありながらも本企画の基盤を構築した。他の班では、イベントの出演交渉や音響の貸し出し確認、借用書の提出、現場視察である。企画班においては、企画の立案、館ヶ丘団地のプロジェクトを進めるにあたっての題名決め、イベントの内容整理や「持続性」「国際性」「関係性」についての考察、学生企画補助金での採択、タウンニュースの掲載、大学内HPへの文章掲載を行った。

当日は、全体で第三街区から使用可能トイレまでの導線を確認し、館ヶ丘団地から第三街区の順路を確認の上、周辺の清掃、商店街や館ヶ丘団地内、第三街区までの誘導、各班での活動も行った。

スタンプラリーの実施、チラシの配布、キッチンカーの誘導、お客様のご案内、野菜販売、イベントの出演管理、出演賞の管理や設営を行った。

商店街で「繋げる町、繋がる町」の内容の宣伝、チラシの配布の実施、地域住民の方をはじめとする多くの方々と交流したことによって、団地内外に関わらず老若男女問わず参加いただける企画の実施が、

実現し、地域住民の方との交流や拠点の基盤を構築し、第三街区の活用を通して「交流拠点の整備」を行うことができた。

後日、本企画の内容で社会人基礎力、拓殖大学内予選にて最優秀賞を受賞し、現在(令和5年月)関東予選を控えている。



企画実施日で学生と団地の方が交流する様子

③事業を実施した感想(実施した者として、どのように感じて、今後どのようにしたいのか)

<要旨>

「繋げる町、繋がる町」を持続的にするためには団地で体感し、交流を経て感じたこと

今後、持続的に団地の活性化を行うため、「繋げる町、繋がる町」は団地の活性化に向け、学生が「人と人を結び繋げる」「人が自然に繋がっていく町」を実現させるため、どのような企画だったのか、目的や企画の基盤にあったものを次世代に繋ぐ必要がある。

館ヶ丘団地の方々と交流し、「タウンニュースで見た!」「この場所に興味を持ってくれてありがとう」といったお言葉を耳にして、団地の方が多々の暖かさや、実施に向けて取り組んだ「多世代間交流拠点」を整備する意味を改めて実感した。

# 間伐材再利用プロジェクト

団体名 Tama Creative Guild 代

表者名 片山祐美子

ただ捨てられるだけの間伐材に、地域やその住人に還元する役割をもたせることを目的としたプロジェクト。

間伐材を提供していただく長池公園を見てみると、地域の子供たちやお年寄りの方々が遊びに来て、交流の場になっているようだった。せっかくならその場所に来る人達に楽しんでもらえるものを創り上げたいと思い、まずは子供たちをターゲットにプロジェクトを進めた。

## 内容① 火おこし器制作ワークショップ

間伐材として捨てられていく木材たちを使ってどんな事ができるかメンバーで話し合った結果、火起こしという案がでた。普段遊んでいる公園の木々を使って火が起こせる、その経験が子供たちにとってとてもワクワクするものになるのではないかと考えた。

長池公園の「パークキッズレンジャー」に参加している子供たちを対象に火おこし器を作成するワークショップを開催した。

## 報告①

準備段階では火おこし器の種類を調べ、子供たちでも作りやすく、火の起こしやすい方法と作り方を研究した。結果として「紐ギリ式火おこし器」を採用した。

子供たちにやってもらう作業を決め、その他の当て板などの材料への加工を行った。

「火」に関わることなので綿密に長池公園と打ち合わせを行い、段取りを確認のもと、安全管理を徹底した。

2023年8月22日、長池公園工作室にてワークショップ「紐ギリ式火おこし器を作ろう!」を開催した。プロジェクトメンバーの指導のもと、参加した子供たち13人全員が怪我なく終える事ができた。当日、参加する子供たちの兄弟姉妹で未就学児もいるとのことだったので合わせて「木へのお絵描き教室」を開催した。火おこしの実演を見ていた子供たちは、煙が上がると声を出して盛り上がっていた。終了後、子供たちや親御さん、長池公園の職員さんから好評の声をいただき、次回のワークショップはいつやるのかといった質問もいただいた。



実演の様子



広報用ポスター

準備の様子





## 内容② 出張芸術祭

当初は作品の展示を考えていたが、話し合いを進めるうちに子供たちがメインターゲットであるなら遊べる体験型の展示という形の方が喜んでもらえるのではないかという意見が出て、その方向で進めた。

また長池公園の職員さんが大事にしたいと話していた木育を取り入れたいと考え、子供たちが楽しみながら間伐材に触れられる祭りを企画することにした。

私たち美大生がコンセプトの下に大学の外で企画する祭りというところから、名前を「出張芸術祭」とした。

## 準備段階②

祭りの内容の詰め作業とそれに伴う予算組みを行った。長池公園の職員さんとの話し合いの結果、市の後援名義使用の申請を行うことにした。長池公園職員さんとの打ち合わせ、後援名義使用申請の事務処理と並行して祭りで行う各種出店の準備をした。当日の人員の補充とパフォーマンスも兼ねて校内サークルへの協力を申請した。ポスター、チラシの印刷完了後は近隣施設及び集合住宅への挨拶回り、及び周知を行った。大学コンソーシアムのお力添えもあり、近隣小学校六校（長池小学校、別所小学校、柏木小学校、南大沢小学校、松木小学校、宮上小学校）へのチラシ配布を行った。

## 報告②

当日は民族音楽「ジャンベ」を祭り囃子として5つの屋台を展開した。

### ・ヤマタノオロチ退治（ストラックアウト）

ヤマタノオロチを模した的の口の中にボールを投げ入れる

### ・奇怪！！カセドリ捕獲隊！！（輪投げ）

日本にある奇祭と言われる「カセドリ」を模した輪投げ。カセドリにねじりはちまきをつけるように投げる。

### ・花咲か爺さんの花占い（千本引きくじ）

花咲か爺さんの咲かせた花からできたオリジナルの花人形をくじ引きして占う。

### ・獅子舞ご飯だよ！（射的）

間伐材を使って制作した獅子舞の口の中に、間伐材で作ったパチンコを使って獅子舞の主食とされる鏡餅を模した球を入れる。

### ・お面屋（お面）

張り子で作ったお面を子どもたちに好きにお絵描きをしてもらい、オリジナルのお面を作り、持ち帰ってもらう。

全体で154回遊んでもらい、盛況のうちに終了した。イベント自体、及び制作物を気に入っていただき、一部制作物を長池公園にて展示させていただけることになった。

## 感想

ワークショップ、出張芸術祭共に当日までは来てくれる人がいるのか、楽しんでもらえるのか心配だったが、両方とも子供たちやそのご両親、地域の方の笑顔が見られて安堵した。

木に絵をかくブースが人気だったり、小さい子がジャンベを叩きに来たりと思ってもいなかった方向で楽しんでもらえることも多く、嬉しい驚きだった。

間伐材の再利用は少量ならかなり容易であるとわかったこと、イベントに対する周囲の反応がわかったことがこの一年の大きな収穫だった。

今後はもっと抜本的に間伐材問題を解決する方法を考えていきたい。



長池公園での展示の様子



周知用ポスター



屋台で遊んでいる様子

## ロボット教室 2023 in サレジオ

団体名 サレジオ高専 機械電子工学科 学科プロジェクト

代表者名 増岡 幹太

### ① 事業内容

近年、家庭用ロボット掃除機「ルンバ」や案内用ロボット、警備ロボットなど、各種ロボットが身近な存在になりつつある。また、中学校でプログラミングが必修科目となり、ロボットを動かすプログラミング等の注目が集まってきている。しかし、授業としてロボット本体を製作することはなく、モノづくりの機会が少ないと考えられる。そこで、園児・小学生を対象とした簡単なロボット製作・体験教室を行う。製作するロボットは、足がブラシになっており、モータによる振動がブラシに伝わることで前進することができる。モータによる振動は、偏心分銅をつけたプーリによって実現する。ロボットにはモータが左右に取り付けられており、有線コントローラを操作すると左右・直線の走行が可能である。また、ロボットへの装飾やブラシの形状を変えることで動きが変化することが可能であり、参加者各自のオリジナルロボットにすることができる。

対象は八王子市の小学生全学年（保護者付きであれば幼児も可）とした。イベント実施の告知は、サレジオ高専HP、および児童館、役所・出張所のチラシ置き場を通して実施した。

開催計画としては、①10月21日(土)～22日(日)に本校の文化祭である育英祭で開催、②11月18日(土)～19日(日)の八王子いちょう祭り内で開催の2本柱とした。両者とも、来場する地域の子供たちを対象とするため、事前申し込み無しで行った。

図1は、子供たちが製作する「ブラシロボット」の例である。このブラシロボットは、木材とモータ、そして布団たたきブラシを使用して構成している。講座では、有線コントローラとロボット本体を製作し、簡単な操作ですぐに遊ぶことができる。右モータと左モータはそれぞれ独立している

ため、旋回することもできる。また、プーリに取り付けるおもりの重さやブラシを切る角度を工夫して速度を変えることや、外装を付けることも可能なので、一人一人が自身の個性や、オリジナリティを出すことができる。さらに、製作に必要な工具や部品が少なく、比較的短時間で完成させることができる。図2はロボット製作に必要な材料と工具である。募集対象を小学生にしたため、安全面を考慮して、やけどの恐れがある半田付けなどの作業を不要とし、画鋸などの先端が鋭くなっているものは製作過程で必要な時にスタッフが手渡すようにした。

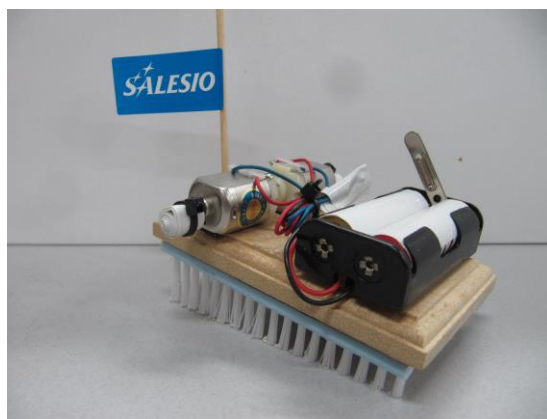


図1 ブラシロボット

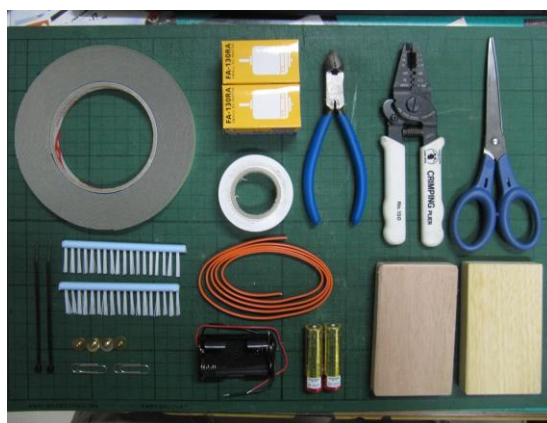


図2 製作キット材料・道具一覧

## ② 実施報告

実施計画では、学園祭といちよう祭りの2本柱の開催予定であったが、想定外の商業施設から開催要望があったため、合計で4回開催した。図3は、セレオ八王子で実施した際の様子である。基本的にマンツーマンで学生が子供をサポートした。前半は、図3(a)のようにロボット本体を製作していく。ここでは、ロボットの足となるブラシをはさみで切るのに苦戦する子供が多かった。そこで、苦戦している場合は、学生がサポートするか、保護者に補助してもらうことで作業を進めた。図3(b)は、後半のコントローラの製作風景である。木に画舫を刺す際、硬い木に刺さなければいけない場合があり、苦戦する子供がいた。その場合は、学生・保護者による補助や新たな木に交換することで、作業をスムーズにした。画舫に導線を巻き付ける作業もあるが、幼児には危険なため、保護者、または学生が行うようにした。

図4は三井アウトレットパーク多摩南大沢で実施した際の様子である。天気恵まれ3日連続で晴れの日が続いた。三連休日に開催したため多くの家族連れが訪れ、3日間で83人の子供たちに参加してもらえた。製作後に遊びたい子供がいたが、ロボットの構造上、砂利やコンクリなどの凸凹した場所では動かないため、その場で遊ばせることができなかった。次回は、ベニヤ板を用いた試走台を作り、設置したい。

他のイベントについては、学園祭で4年ぶりに外部からの来場者が入り、参加人数は64人に達した。いちよう祭りでは、例年通り2日間にわたって屋外ブースを出展し、合計で45人の子供たちに参加してもらえた。

## ③ 事業を実施した感想

製作体験に参加してくれた子供の中に兄弟で1台ずつ作り、家で競争しようといっている子供がいた。ベニヤで台を作る際に、ほかの子供たちと競争できるように、道路のようなデザインにしてもよいと感じた。他にも、顔を描いて名前を付け、まるでペットのように扱う子供もいた。ロボットの用途が一つに定まっていないことで、様々な遊び方で遊べることを改めて感じ、このロボットに

してよかったと思った。しかし、最終工程で、ブラシの毛先を整える必要がある。この工程は、学生が電動工具のベルトサンダーを用いて行すが、この作業が難しく習熟した学生が少ないため、習熟した学生が指導者となり、後輩に指導する必要がある。また、前回の反省から、新しい構造のロボットへ変更したが、今後も子供たちが飽きないように、次期型の新たなロボットの案を考えておく必要がある。



(a) ロボット製作の様子 (本体)



(b) ロボット製作の様子 (コントローラ)

図3 セレオ八王子で実施した際の様子



図4 三井アウトレットパークで実施した際の様子

# 八王子産の規格外野菜を活用した乾燥野菜のメニュー開発

団体名 東京家政学院大学 食育研究会

代表者名 下枝靖加

## ①事業内容

### 1-1 研究背景

現在、日本の食糧自給率は38%と他国と比較するとかなり低い。ロシアによるウクライナ侵攻の影響により輸入額が高騰し、食料価格の値上がりへとつながっている状況である。食料自給率の低い日本は食糧難となり、この状態が続くとなると日本は世界で最初に飢餓に陥ると言われている。また、これから起こりうる自然災害に備えて日本独自の食による解決策を見つ出す必要がある。

また、現在日本では年間44万トンもの野菜が出荷されず、廃棄される食品ロスが問題となっている。このことからそれらの野菜を活用して日常時及び災害時の乾燥野菜の有用性について国民に知ってもらい、市場に出回ることのない野菜を乾燥野菜として利用し食料自給率の向上に向けて経済を回していくことが大切である。

### 1-2 研究目的

そのため私たち食物研究会は、**八王子産の規格外野菜を用いた、乾燥野菜を活用しスピーディで簡単・便利・栄養バランスの良い調理方法を企画・考案し、一般市民に公開し、日常食及び非常食としての認知を高め、市民の食事バランスを整え望ましい栄養状態を保持しようとする**ことを目的に本研究を行う。

また、乾燥野菜を活用した美味しい料理を考案し、八王子の新たな商品発掘・販路拡大を目指し・地産地消及び食品ロス低減(SDGs)に繋げる。

## ②実施報告

### 2-1 乾燥野菜の戻し方

乾燥ほうれん草、ミックス乾燥野菜(キャベツ・人参)を使用し乾燥野菜を上手に戻すことのできる温

度・時間について研究を行いました。30℃で戻す場合は25分時間が必要なのに対して、90℃で戻す場合は4分と短い時間で戻すことができることがわかった。

### 2-2 乾燥野菜の乾燥方法

八王子市のグッドホーム登坂様の農園に実際に収穫しに行き、市場に出回ることのない野菜を提供してもらいました。収穫した野菜を乾燥野菜機(大体の野菜は70℃ 5時間で乾燥可)にて乾燥させます。

また、水分の多い野菜を乾燥させるには多くの時間を必要とするため、薄切りに野菜を切ることによって上手に乾燥できることがわかりました。特にトマトは種と一緒に乾燥させるとしっかりと乾燥させることが難しくなるため、種を取るなどの工夫が必要なることがわかった。

### 2-3 乾燥人参・乾燥トマトを活用したパウンドケーキの作成

基本のパウンドケーキの作成方法をもとに乾燥人参、乾燥トマトを使用したパウンドケーキを作成した。

9月9日 道の駅八王子滝山にて開催された、アウトドアイベントに参加した際、試食してもらったパウンドケーキは表面に乾燥トマトを並べ作成したこともあり、生地に練りこむ乾燥野菜の量が少なくなりました。そのため、試食してもらった方たちから、「おいしいが、あまり乾燥野菜の食感がしない」という意見が多く上がってしまった。



図1. 表面に乾燥トマトを並べたパウンドケーキ

このことを活かし、11月16日 東京家政学院大学にて開催された地域連携事業報告会、2月3日 八王子市消費生活フェスティバルで試食してもらったパウンドケーキは、乾燥人参、乾燥トマトをお湯で戻した際、細かくみじん切りをし、生地に乾燥野菜を練りこませるように作成した



図2. 生地に乾燥野菜を練りこんだパウンドケーキ

#### 2-4 道の駅八王子滝山アウトドアイイベントによる活動報告

道の駅八王子滝山にて開催されたアウトドアイイベントに参加した際、乾燥人参乾燥トマトのパウンドケーキ・乾燥人参とクルミのパウンドケーキの試食、乾燥野菜に関する認知度・活用頻度などの調査を行った。



図3 道の駅八王子滝山アウトドアイイベントの試食ブース

#### 2-5 東京家政学院大学開催、地域連携事業報告会での活動報告

11月16日 本学の地域連携事業報告会にて活動報告、乾燥ニンジンと乾燥トマトのパウンドケーキの提供、ア

ンケート調査を行った。

#### 2-6 乾燥野菜を活用したパウンドケーキ以外のメニューの考案。

乾燥人参と乾燥トマトのパウンドケーキ以外で、乾燥野菜を活用したメニューの考案・試作を行った。メニューは、乾燥ほうれん草のオムレツ、乾燥小松菜のシチュー、乾燥水菜のマリネなどがある。

2-7 八王子市消費生活フェスティバルでの活動報告  
2月3日 八王子市消費生活フェスティバルに参加した際、乾燥野菜に関する認知度調査、乾燥ニンジンと乾燥トマトを使用したパウンドケーキの提供、上記の乾燥野菜を使用したメニューのレシピを記載したチラシの配布を行いました。

#### ③事業を実施した感想

9月に参加した災害イベントにて乾燥野菜についてのアンケートを実施したところ、乾燥野菜の認知度が低いことがわかったので、今後起こりうる災害に備えて乾燥野菜の認知度や有用性について八王子市民にイベントなどを通じてさらに広めていく必要があると感じた。また、乾燥野菜のメニュー開発について、乾燥トマトと乾燥ニンジンのパウンドケーキ以外のメニュー（乾燥小松菜のシチュー、乾燥ほうれん草のオムレツ、乾燥かぶと乾燥水菜のマリネ）も考案し、披露する予定だったが、八王子市消費生活センターから食中毒の危険性について指摘されてしまったため、披露することができなかった。メニュー考案の際には食中毒などの危険性についても考える必要があったと、勉強になった。八王子市消費生活フェスティバルにて調理講習会を行う予定だったが、主催者側との相違により、調理講習会ではなく試食会となってしまったことが反省点であり、事前にもっと確認しておく必要があったと感じている。